

四三九四番

大君おほきみの命みこと恐かしこみ 弓ゆみのみた さ寝ねか渡わたらむ 長なが  
けこの夜よを

ひとり 竜田山の桜花を惜しむ歌一首

四三九五番

竜田山たつたやま 見みつつ越こえ来こし 桜花さくらばな 散ちりか過すぎな  
む 我わが帰かへるとに

ひとり 独り江水に浮かび漂ふ糞を見、貝玉の寄らぬ  
を怨恨みて作る歌一首

四三九六番

堀江ほりえより 朝潮あさしほみ満みちに 寄よるここつみ 貝かひにありせ  
ば つとにせましを

むろつみ 館の門に在りて江南の美しき女を見て作る  
歌一首

四三九七番

見渡みわたせば 向むかつ峰をの上への 花はなにほひ 照てりて立たて  
るは 愛はしき誰たが妻つま